

# 社会委員会通信

27

2007.7.1

発行：横浜港南台教会 社会委員会

〒234-0054

横浜市港南区港南台 7-8-29

Tel : 045-833-5323 Fax : 045-833-6616

6月10日の学習会は、「『命に国境はない』～報道の見えない壁の向こうで～高遠菜穂子イラク報告」という題での講演の録画で、途中、写真と現地の映像が入る1時間55分に及びビデオを鑑賞しました。普段、テレビや新聞では目にすることのない色々な事実の映像を通して、イラクの現状を知ることができ、改めて「戦争」と「平和」について深く考えさせられるものでした。

すさまじい破壊と破滅に行き着く戦争は、人々にとっての喜びや幸せを生み出すことはありません。多くの貴い命やお互いの自由が奪われ、暴力を生み、悲しみや苦しみが満ち溢れています。こうした現状に心が重くなり、どうしてよいのか思いあぐね、立ちすくんでしまいますが、「平和」のために人間として、キリスト者として何をなすべきか、何ができるのか、皆様と一緒に考え、知恵を出し合っただけから歩み続けたいと思います。神様のみ心を信じ、全ての人々が互いに許しあい、助け合う愛の道を見つけさせて下さいと願い、戦争のない世界を祈ります。

私事ですが今年度、社会委員長をお引き受けするきっかけの一つとなったのがこの歌に出会ったことです。

## 地には平和

日本語訳：塚本 潤一

地には平和 このわたしから あなたが望んでおられたこと  
わたしたちは 主の子供 共に歩こう 愛とともに  
地には平和を この時から 始めさせてください 神様  
どんな時も どんな場でも 永遠に 地には平和 このわたしから

参加者は38名（女性28名、男性10名）でした。参加者の皆様ありがとうございました。

（社会委員長：H・T）



## 高遠菜穂子さんのプロフィール

イラク支援ボランティア。1970年1月14日、北海道千歳市出身。麗澤大学外国語学部英語学科卒。

卒業後、東京で1年間OL生活。退職後は学生時代に語学留学していたアメリカへ。黒

人解放運動の田尻成芳氏のもとを訪れ、生き方について考える。

24歳の時にカラオケボックスを開業。30歳を機に仕事を辞めてからは、インドのマザー・テレサの施設や孤児院、タイ、カンボジ

アのエイズ・ホスピスの仕事を手伝う。

2003年3月にイラク戦争が勃発し、ブッシュ米大統領の「大規模戦闘終結宣言」が発表された5月1日にイラクに初入国。NGOと共に病院調査、医薬品運搬、学校再建などを行う。後半は、路上生活する子どもたちの自立支援に取り組み始める。

2004年4月、4回目のイラク入国の際にファルージャ近郊でイラクの抵抗勢力に拘束される。

2004年8月より隣国ヨルダンからイラク

支援を再開。バグダッドで薬物依存に走り始めた路上生活の子どもたちに「子ども自立支援プロジェクト」として就職斡旋と職業訓練、またファルージャでは破壊された学校を再建する「ファルージャ再建プロジェクト」をイラク人と共に進めている。

~~~~~

著書：『愛してるって、どう言うの？～生きる意味を探す旅の途中で』(文芸社・1,050円)、  
『戦争と平和 それでもイラク人を嫌いになれない』(講談社・1,575円)

高遠菜穂子イラク報告 DVD (115分)  
『命に国境はない～報道の見えない壁の向こうで、  
イラクでは何が起きていたのか？～』について



このDVDは、報告会を収録したものに、より多くの写真、映像、図解などが追加されています。映像などはショッキングなものが多く含まれています。

高遠さんは、ご自分のブログ「イラク・ホープ・ダイアリー」で、このように書いておられます。「戦争(テロとの戦い)の実際を知る上では、こうした映像を削除することはできません。日常の風景や音、それを切り裂くようにとどろく砲撃の音、そして遺体が私たちにたくさんの事実を無言で示してくれています。

彼らの代わりに伝えなければならないことがたくさんあります。『伝えてくれ』と真剣なまなざしで言われてきました。ご覧になった皆さまが、これらの事実を受け取ってくださり、『何をなすべきか』を考えるきっかけにいただければ幸いです」

=== 内 容 ===

<2003年5月大規模戦闘終結宣言から  
2004年ファルージャ総攻撃に至るまで>

#### 第1章：抵抗の始まり

2003年4月28日、ファルージャ住民は米軍の学校占拠に抗議するデモを行った。しかし、現場は流血の惨事となった。

#### 第2章：武装勢力の流れ

ファルージャでは米軍による発砲で死者が増加。やがて遺族は武装していき、次第に強大になっていった。

#### 第3章：報道の見えない壁

メディアは、住民の拒絶や米軍の妨害を受け、取材が出来なくなっていった。その陰で米軍の掃討作戦が行われた。

#### 第4章：引き裂かれた日常

ごく普通の生活の中で突然に起こる悲劇。

米軍は民衆を敵とみなし、攻撃する。女性も子どもも関係なく、動くものすべて・・・。

## 第5章：ファルージャ総攻撃

『命に国境はない～報道の見えない壁の向こうで、イラクでは何が起きていたのか？～』を鑑賞して

M・T

昨日(9日)家内が上大岡で高遠さんの集会に出て、是非私にも高遠さんの日常活動を見て欲しいとの強い思いから今日、港南台教会の社会委員会の集会に参加させて頂きました。

私は、石油メジャーの一つである石油会社に勤務しています。アメリカによるイラクへの戦争は、戦争を起こす2ヶ月前に会社から情報が流されました。この30年間の紛争は、石油資源等をめぐる戦いでもありました。(ですから、石油とか資源のない国での紛争にはアメリカ等の大国はあまり関与しません)

アメリカの産業で、軍需産業は他の追随を許さない産業です。この軍需産業は、紛争が起きないと新しい機械に更新できません。ですから、軍需産業の関係者は常に紛争の種を探しまわっています。

今日のビデオを観て感じたのは、いかに為政者が情報操作し、自分の都合の良いようにしているかということです。ですから本当の姿は高遠さんらの命をかけた地道な活動によりイラクの人たちにも心が通じ、そしてビデオ映像を通して、活動を知らされない他の国々の人たちに本当の姿を伝えていることに感動しました。

高遠さんが一時イラクで拘束され、幸いにも解放されましたが、その時政府は、高いコ

ストを払ってやったからということで、国民にこうした危険な行動はもつての他だと、マスメディアを通して国民に浸透させました。小泉前首相以降、為政者はマスメディアを自分の都合の良いように使って、政治を司っています。

みなさんも郵政民営化論議で経験されたかと思いますが、為政者は情報操作して国民に本当の姿を隠し情報を流し、その結果選挙で圧倒的な議席を得ました。

そして今、圧倒的多数の議席に力を得て国民投票法案、憲法改正、公務員改革法案と、えせ改革法案をゴリ押しで成立している現状です。操作された情報の伝達は、何もイラクのことだけでなく、わが日本でも堂々で行われているのです。

高遠さんたちのイラクでの活動をビデオで観て、イラクで今何が本当で、人々が何を欲しているか、何を訴えているか、良く分かりました。この小さな活動を今後支えていきたいと思います。

最後に、港南台教会の社会委員会では偏見なしにこうした委員会活動をして勉強会を行っていることに、深く感銘を受けました。感謝です。



新聞やテレビなどで知らされる情報とのあまりにも違う恐ろしい現実に、本当に打ちのめされる思いがしました。強引にイラクを攻撃しなければという考えに突き進んだアメリカの意図は何だったのでしょうか？

世界で何でも一番でなければ気がすまないアメリカの思い上がりは、もう通用しなくなっています。ベトナム戦争でも、結局アメリカは敗退してしまいました。

遅かれ早かれ、もう先は見えていると思います。こういう戦争に日本が加担しているとは、とても情けないことです。早く、一日も早く、この無意味な攻撃をアメリカに止めて欲しいと願って止みません。

高遠さんの報告で次々映し出されるアメリカによる残虐な掃討作戦の実態に、思わず身震いをしてしまい、正視出来ない場面が多々ありました。

世界で使用が禁止されている化学兵器が使われた実態も明らかになりました。本当に恐ろしいことです。何の罪もない多くの人々がこうして毎日のように犠牲になっているのです。

講演の最後に、日本でも演習でこの恐ろしい化学兵器が使用されている、と述べられました。このような事は、私たち一般の人には全く知らされていません。

今、日本では憲法改正の国民投票法が国会で成立しました。世界に胸を張って誇れる平和を願う現憲法を守って行くようにしなければならぬという思いを強くしました。

高遠菜穂子さんの講演会があると聞いて、私はてっきり 2004 年の、高遠さん達がイラクで拘束された事件についての報告会だと思い、多分日本政府が言った自己責任論の不当さを糾弾する会になるだろう、と勝手に考えていた。ところが、このビデオは全く違っていた。これは本格的なアメリカのイラクに対する理不尽な攻撃を批判し、そして「戦争」というものを、我々に根本的に考え直させる日本人に対しても重い抗議を含めたビデオであった。

ファルージャの街の人々は、自分達の日常生活に必要な学校や病院を全面的に占拠したアメリカ軍に対して、必要部分の返還を求めたのに、アメリカ軍はその街全体を徹底的に攻撃して、全面戦争を展開した。それは日本が中国に対してとった態度に極めてよく似ている。日本の間違った少数の軍人による陰謀が、支那事変をドンドン拡げて行き、アレヨアレヨと言う間に戦争は広がって行き、一部軍人の傍若無人に日本政府は対応策を示せず、遂に「不拡大方針」という無責任の標本を天下に示した。

ブッシュ大統領は今アメリカを守るのが最重要課題と考えているのかも知れないが、地球で生きている全ての人間と共にどうすれば生きていけるのか、考えてほしい。イラクの全土にバラ撒いている、赤燐弾、黄燐弾等、国際的に使用を禁じられている毒物を使って、それで本当の平和が来ると思っているのだろうか？ 子供達の足は切断され、腕はそがれて、ウジ虫の山に囲まれ、泣き叫ぶ女の人たち、逃げ惑う人、傷ついた人、殺された人々、これらの人達の親族一同はこの復讐を誓い、ア



アメリカへの憎悪を倍増させる結果になる事に  
どうして気がつかないのか？

こんな事を言う私も、勿論罪がないと言っ  
ているのではない。立派な憲法を持っている  
のに、アメリカの尻馬に乗っている日本の事  
を本当に申し訳なく思っている。

私たちは高遠さんに教えられて、全地球の  
人々が共に平和に生きられる世界を来たらず  
ために、今日から一生懸命生きてゆきたいと  
思っている。



K・O

ある程度予想はしていましたが、それを  
はるかに上回る重い内容のビデオでした。それ  
が感想の第一です。次が、高遠さんの評価に  
ついて自分の迷いがなくなったこと。支持・  
非難半ばしていたが、ビデオを観た後ではそ  
んなことは本質的問題ではなく、このビデオ  
が現実を正しく伝えているに違いない、それ  
が第二の感想。そして、これに関連して“報  
道”の重要さについても深く考えさせられま  
した。おそらく大部分のジャーナリスト・マ  
スメディア関係者は、自己の職務を遂行する  
上で、真実を避けたり隠したりしないことを  
職業上の最低限の行動規範として持っている  
はずですが、しかし、結果としてそれが正しく  
機能しないことが往々にしてあるということ。  
通常我々が接することが出来るのは、かなり  
限定された報道であり、しかも一種のフィル  
ターを通した情報であるという現実を忘れて  
はいけないと思います。

この戦争の戦後処理がどのような形で決着  
するとしても、社会がテロに走る人を抱えて  
いては、本当の解決にはなりません。

私見ですが、富の偏在(不均衡)やさまざま  
な格差が世界的な潮流となり、社会不安を引  
き起こし、それが先鋭化してテロを生み出し  
ていくのではないか。その底流には、かつて  
の植民地政策に対する反発もあるかもしれな  
いが、格差縮小が社会の安定化に必要であり、  
テロ鎮静化につながるはずですが。格差縮小の  
重要な要件として経済成長が必要であり、そ  
こで地球温暖化・環境問題も格差と絡んでく  
る。余り背伸びしてもいけないが、幸い日本  
はこの分野では二度のオイル・ショックの経  
験を契機に技術開発が進み、ノウハウを世界  
に開示出来るはずですが。地球環境を守りなが  
ら、経済成長をしていく道筋を世界(特に発展  
途上国)に示していくべきではないでしょ  
うか。

最後にもうひとつ。このビデオを観ながら  
強く思ったことがあります。憲法問題です。  
「二度と戦争はしない」という国民の誓い  
を守っていかなければいけないという思いを改  
めて強くしました。すべてはこの大前提のも  
とに日本は発言し、行動をしてきた。もしこ  
れがなくしてイラクに自衛隊を派遣していたら  
、どんな事態が発生していただろうか？ い  
ずれにしても、このビデオを観て、普段あま  
り意識することのなかったことを色々考えさ  
せられました。



R・S

高遠菜穂子さんの報告のビデオの中のイラ  
クの現状を写した映像は、「見えない報道の向  
こうで」何が行われているか、しっかり見て  
ください、そして国際世論に訴えて欲しいと  
いう願いで、さまざまな妨害の中で現地のボ

ランディアやフリーのカメラマンによって写され、編集され、高遠さんに託されたものです。

テレビや新聞のイラクに関するニュースを見て、わたしはシーア派とスンニ派がこんなに報復に継ぐ報復を繰り返していたのではしょうがない、そのうち誰もいなくなってしまうのではないか、とっていました。それは違っていて、今起こっている戦闘は、外国から入ってきた武装勢力によって仕掛けられ、拡大されたものだったのです。イラク国民と米軍、外国人武装勢力、そしてイラク政府、特に警察を管轄するジャファリ内務大臣の関係が説明でよく分かりました。それぞれ自分達の所属している国家や組織の利害や主張を背負ってイラクを戦場にしているのです。どれもイラクの国や国民の利益を考えていません。たくさんの人々が誤爆の名のもとに命を落とし、また避難民として国の外に出て行っています。

時がたって酸鼻を極める遺体を引き取り、

埋葬のために集まっていた「アラー、アクラム」(オーマイゴッド)と叫んでいた人々、爆撃された瓦礫の山を片付けている普通の人々がこれからのイラクを立て直していくと信じたい。日本はイラク戦争に賛成してしまいました。せめて、憲法9条があって本当に良かった。

「栄区・九条の会」での講演会の時のビデオでは、高遠さんがこの戦争で家族や家を失ってストリート・チルドレンとなった子ども達の支援をしている様子が見られました。子どもと言うより若者達ですが、無気力で投げやりな様子でした。そのうち自分達の居場所となる家を皆で計画し、左官仕事をし、壁紙を貼って作り上げていくうちに、動作も表情も生き生きとしたものになっていきました。その中の一人の青年が結婚する事になり、結婚式に大勢の人たちが集まって、歌って踊って、それはそれは楽しそうでした。それが人々の生活であり、文化なのでしょう。外から入ってきて壊す権利は誰にもありません。



#### 社会委員会からのお知らせ

8月5日(日)に平和学習会を開催します。高座渋谷教会の菊池礼子牧師を講師としてお招きし、講演していただきます。

今回上映したビデオ『命に国境はない～報道の見えない壁の向こうで、イラクでは何が起きていたのか?～』(高遠菜穂子イラク報告)は社会委員会で購入しました。教会のビデオ棚に置いてありますので、どうぞご鑑賞ください。

社会委員会へのご意見や学習会で取り上げてほしいテーマがありましたら、お知らせ下さい。